



# 平戸市 議会だより

vol.83

令和6年(2024年)  
2月1日発行

## CONTENTS



### 12月定例会

- 2 ... 12月定例会ここに注目!
- 4 ... 常任委員会レポート
- 6 ... 決算特別委員会レポート(令和4年度決算審査)
- 12 ... 審議された案件と結果
- 13 ... 一般質問
- 17 ... 平戸市議会議員倫理条例に基づく審査報告  
可決された意見書  
議会広報特別委員会委員の紹介



大島村大根坂港での水揚げ

とかいせん

No.83 2024.2.1 平戸市議会だより

編集・発行:平戸市議会広報特別委員会 平戸市岩の上町1508-3

TEL22-9170 FAX22-3427 E-mail:gikaku@city.hirado.lg.jp



今号から、「平戸のチカラ」コーナーでは、平戸市で活躍する人や団体にスポットをあて、紹介をしていきます。

## 生まれ育った大島で、家族とともに漁業を営む

さかもと げんき  
坂本 玄輝 さん(24歳) [大島村大根坂 漁業]



師走の漁港に、今朝とれたばかりの魚が水揚げされている。交わす言葉は少なくとも、「あうんの呼吸」で手際よく魚を仕分け、氷詰めがされていく。作業に当たる皆さんの洗練された一連の流れに、長年ここで漁業に携わってきたことへの誇りを垣間見ることができた。作業が一段落したのち、快く取材を受けてくれた坂本玄輝さん。聞けば、進学を機に大島村を離れたが、20歳の時に生まれ育ったここ大島村へ帰ってきたのだという。

現在、大島村大根坂港を拠点に、定置網漁に従事する玄輝さん。本人と父、祖父、大叔父の4人で船に乗り、荷揚げ場では母も加わり家族で漁業を営んでいる。取材に伺った日には、家族揃って桃色と白のツナギを着用していた。3人姉弟の長男で、姉と妹がいるという玄輝さんは、地元の中学校を卒業後、水産科がある県立長崎鶴洋高校へ進学。ここで水産業の基礎を学び、高校卒業後は大型船舶を操舵できる海技士免許を取得するため香川県へ。洋上研修などを経て、海技士3級免許を取得したという。「元々スポーツが好きなので、プロスポーツ選手にも憧れていました。」と笑いながら話す玄輝さんだが、いずれは地元に戻り、家業の漁師を継ごうと思っていたとのこと。



## 父のような立派な漁師を目指す

「現在持っている3級の海技士免許は、漁で使っている船には不要ですが、今後の保険として資格を取りました」と話す玄輝さん。今後の目標についても、「現在の定置網漁の規模を維持していきたいです」と控えめだったが、燃油価格の高騰などによるコスト増や、魚需要の変化、環境問題など、現状を維持していくためには、変革が必要だと本人は強く認識しており、漁獲したサバを「いけす」のように餌付けし、大きくしてから出荷するなどの取り組みも新たに行っている。「いずれは、父親のような立派な漁師になりたい」と抱負を語ってくれた玄輝さん。その凛々しい目は、まっすぐ前を見据えており、すでに頼もしく一人前の漁師の姿そのものに見えた。

### 広報特別委員会

委員長	針尾 直美
副委員長	松口 茂生
委員	綾香 良浩
委員	池田 稔巳
委員	山内 貴史

昨年11月の臨時議会において組織改編があり、広報特別委員会のメンバーも新しくなりました。今号が、新メンバーで臨む初めての議会だよりとなります。紙面構成はこれまでのスタイルを引き継ぎますが、「平戸の宝」のコーナーは、「人」に焦点をあてて取材させていただくこととしました。早速、父親の仕事を継ぐために大島村に帰って来た頑張り屋さんがいるとの情報を得て、取材させていただきました。大島に帰って来て嫌だったことはいか聞いてみたところ、「島外に出た時、常に船の時間を気にしなければいけない」ことだとのこと。「買い物をしていても友達と楽しい時間を過ごしていても、船の時間を気にしなければいけない。」「離島で生活したことのない私には思いもよらない回答でした。離島で暮らすハンデを感じながらも自らUTターンを選択してくれたことに感謝しながら、帰って来て良かったと思ってもらえる平戸にしなければと改めて感じた取材でした。」

(針尾 直美)

編集後記

